百々よみとりおけいこ㉘（低）　ねん　くみ　名まえ（　　）

みなさんはどこかにおでかけするときはどうやっていくでしょうね？くるまにのる人もいるでしょうし、じてんしゃにのって出かける人もいるでしょうね。むかしの人はじぶんのあしであるきました。じどうしゃがなかったころは、どこまででもみちをあるきました。

まずはならかいどう。ならに都があったころ、ということでいまから千三百年もまえですが、ならからにほんかいにぬけるみちは山しなをとおればべんりでした。いまでも、山しなの追分のあたりで東海道とわかれて南にいくみちはむかしっぽくてタイムスリップしたような気分にさせてくれます。

つぎは東海道。江戸時代に京と江戸をむすぶ五十三次がつくられました。旧三条通が江戸時代にたび人があるいていた東海道です。山しなじぞうのあたりには今でもそのころのふんいきがのこっています。

東海道と渋谷かいどうがわかれるばしょには、「五条別れ」のみちしるべがあります。一七〇七ねんに沢村さんという人がたてたものです。ここにかかれた名所の中に「大沸」とあるのは、ならの大仏ではなく、方広寺の木でできた大仏のことです。

だいごかいどうはだいごから山科をぬけてしがけんにいたるみちです。このみちぞいにはたくさんのお寺もあり、江戸時代には「茶壷道中」が宇治から江戸にむかうときにとおるみちとしてつかわれていました。

茶壷道中についてはつぎでくわしくせつめいしましょう。むかしはお茶にも「どげざ」しなければいけなかったんですよ。💀→こんなおじぎです。さあ、なぜでしょうね？おんどくサイン→

①なんのはなしでしょう？
（　）山しなのむし（　）山しなのでんしゃ
（　）山しなのふしぎ（　）山しなのみち

②上でとり上げられたうちで一ばん古いかいどうはなんといいますか？
（　　）

③東海道は今のなんという通りですか？
（　　）

④山しなじぞうのあるとおりのむかしのなまえはなんですか？
（　　）

⑤五条わかれのみちしるべをたてた人は？
（　　）

⑥五条わかれのみちしるべは今から何年前にできたのですか？
（　　）

⑦そのころ京都にあった大仏はなにでできていましたか？
（　　）

⑧だいごかいどうをとおって江戸にはこばれたつぼの中には何がはいっていましたか？
（　　）

⑨あっているものに〇をつけましょう。
（　）とうかいどうにはふるいいえしかない。
（　）江戸時代の家はなくなりつつある。
（　）今でもお茶には「どげざ」がひつようだ。

⑩おもったことを五行でまとめましょう。

できばえは？

百々読みとりおけいこ㉘（中）　年　組　名前（　　）

今日から何回か山科の交通のれきしについてくわしくなってもらいましょう。じつはここ、山科は交通の要所、むかしから多くの人や荷物が行きかった大切な道がたくさんあるのです。

まずは奈良街道。奈良に都があったころ、ということは千三百年も前ですが、奈良から北陸にぬける道は山科を通れば便利でした。いまでも、山科の追分のあたりで東海道と別れて南下する道は風情がのこっていてタイムスリップしたような気分にさせてくれます。

次は東海道。江戸時代に京と江戸を結ぶ五十三次が制定されたのです。車がたくさん通る今の三条通ではなく、旧三条通が江戸時代に旅人が行きかっていた東海道です。山科地蔵、徳林庵のあたりには今でもそのころのふんい気が残っています。

東海道から渋谷街道に分かれる分岐点には、「五条別れ」の道標があります。宝永四年（一七〇七）に沢村道範という人がたてたものです。ここに書かれた左に行けば見られるという名所の中に「大沸」とあるのは、奈良の大仏ではなく、方広寺の木像大仏のことです。

醍醐街道は外環状線とも一部重なる道ですが、醍醐から山科をぬけて滋賀県大津市にいたる道です。この道ぞいには隨心院や醍醐寺や勧修寺などのお寺もあり、江戸時代には「茶壷道中」が宇治から江戸に向かう時に通る道として使われていました。

茶壷道中については次号でくわしく説明しましょう。昔はお茶にも土下座しなければいけなかったんですよ。さあ、なぜでしょうね？

音読サイン→

①何の話でしょう？
（　　）

②上で取り上げられたうちで一番古い街道は何ですか？
（　　）

③東海道は今のなんという通りですか？
（　　）

④山科地蔵のあるお寺の名前は？
（　　）

⑤奈良街道と東海道の分岐点の地名は？
（　　）

⑥五条別れの道標は今から何年前にできたのですか？
（　　）

⑦そのころ京都にあった大仏の素材は何でできていましたか？
（　　）

⑧醍醐街道を通って江戸に運ばれた壺の中には何がはいっていましたか？
（　　）

⑨あっているものに○をつけましょう。
（　）東海道は昔の家ばかりが立ち並んでいる。
（　）江戸時代の家は姿を消しつつある。
（　）今でもお茶には土下座が必要だ。

⑩上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

百々読み取りおけいこ㉘（高）　年　組　名前（　　）

今日から何回か山科の交通の歴史についてくわしくなってもらいましょう。じつはここ、山科は交通の要所、昔から多くの人や荷物が行きかった大切な道がたくさんあるのです。

まずは奈良街道。昔、奈良に都があったころ、ということは千三百年も前ですが、奈良から北陸に抜ける道は山科を通れば便利でした。いまでも、山科の追分のあたりで東海道と別れて南下する道は昔の風情がのこっていてタイムスリップしたような気分にさせてくれます。

次は東海道。江戸時代に京と江戸を結ぶ五十三次が制定されたのです。車がたくさん通る今の三条通ではなく、旧三条通が江戸時代に旅人が行きかっていた東海道です。山科地蔵、徳林庵のあたりには今でもそのころのふんい気が残っています。

東海道から渋谷街道に分かれる分岐点には、「五条別れ」の道標があります。宝永四年（一七〇七）に沢村道範という人がたてたものです。ここに書かれた左に行けば見られるという名所の中に「大沸」とあるのは、奈良の大仏ではなく、方広寺の木像大仏のことです。

醍醐街道は外環状線とも一部重なる道ですが、醍醐から山科を抜けて滋賀県大津市にいたる道です。この道ぞいには隨心院や醍醐寺や勧修寺などのお寺もあり、江戸時代には「茶壷道中」が宇治から江戸に向かう時に通る道として使われていました。

茶壷道中については次号でくわしく説明しましょう。昔はお茶にも土下座しなければいけなかったんですよ。さあ、なぜでしょうね？

音読サイン→

①何の話でしょう？
（　　）

②上で取り上げられたうちで一番古い街道は何ですか？
（　　）

③東海道は今のなんという通りですか？
（　　）

④山科地蔵のあるお寺の名前は？
（　　）

⑤奈良街道と東海道の分岐点の地名は？
（　　）

⑥五条別れの道標は今から何年前にできたのですか？
（　　）

⑦そのころ京都にあった大仏の素材は何でできていましたか？
（　　）

⑧醍醐街道を通って江戸に運ばれた壺の中には何がはいっていましたか？
（　　）

⑨あっているものに○をつけましょう。
（　）東海道は昔の家ばかりが立ち並んでいる。
（　）江戸時代の家は姿を消しつつある。
（　）今でもお茶には土下座が必要だ。

⑩上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？